

「自由を守る戦い」（郷友安保フォーラムより）

政治・外交評論家 アンドリー・ナザレンコ

本日はお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、日本国政府、日本国民によるウクライナに対する支援に対して心より感謝を申し上げます。ウクライナの危機を巡って、日本は本当に異例な対応を取って下さっています。避難の受け入れに加えて、さまざまな人道支援、経済支援を行っています。今も自衛隊の輸送機が、東ヨーロッパに対しウクライナのために物資を運んでくださっています。

避難に関しては、私が直接関わっている事業でもありまして、現在は千三百人ぐらいだと言われていますが、日本語を喋れる人は圧倒的に少ないです。彼らは一時的に千葉県の方で滞在して、その後全国の自治体とさまざまなマッチングを行った上で各地へ行くこととなりますが、その中で私も法務省の依頼を受けて、難民たちの通訳、翻訳、医療通訳などに関わっています。今までに多分二百人ぐらいの避難民にインタビューをしましたが、本当に多くの方々が、単に日本に住み、日本にいただけでなく、日本の支援に対する強い感謝の気持ちを持って、何らかの形で恩返しをしたいと考えている方が非常に多くいると感じています。ありがとうございます。

本題に入ります。皆様ご存知かと思いますが、今年の2月21日、戦争が始まる三日前ですが、駐日ロシア大使のガルージンさんがNHKのインタビューに答えて、「我が国には戦争をするつもりも計画もありません。」と言いました。その3日後にロシアによる全面戦争が始まりました。今なお、ロシアはあらゆる国際法に違反して侵略行為を続けて、ウクライナ各地であらゆる暴虐を続けています。21世紀にはあり得ないようなことが起きてしまっているのです。

私の出身はハルキフで、そこで生まれ育ちました。ハルキフはどのような街かと言うと、ウクライナ第二の都市で人口は百四十万人位います。ハルキフは一番東部にある街で、今の戦争が始まった時、最も早くミサイル攻撃を受けた街の一つでもあります。さらに、ハルキフの場合はさまざまな軍事工場、民間工場が多いので集中的に狙われていまして、今はウクライナの中で最も強い砲撃とミサイル攻撃を受けている街でもあります。

私の個人的な話になりますが、私はウクライナで第17小中学校というところを卒業しました。私の学校は、戦争が始まってから3回も攻撃を受けて、そのうちの2回は砲撃で、3回目はミサイル攻撃だったので、学校は完全破壊に近い状態にありまして、修理することは不可能です。すべて破壊して撤去した後に最初から作り直さなければいけないとも言われています。学校から実家までは百五十メートルぐらいしかありません。戦争が始まってから実家の周辺にミサイルが落ちたのは三回くらい、四百メートル以内の距離に落ちたこともありまして、さまざまな所が破壊されています。私はこの学校に6歳からずっと通っていて、周辺に何があるかよく知っています。そこは学校が三つ、病院は一

つ、それからスーパーと民間住宅しかありません。にもかかわらず、3回も狙われて破壊されました。今のロシア軍は軍事施設しか狙ってないと言っていますが、それは完全な嘘であります。

ロシア軍は、最初は3日間くらいでウクライナを落とすつもりでいました。全面攻撃により3日間くらいでウクライナを落として政権を交代させ、ウクライナを支配するつもりでいたわけですが、今となってはその戦略は失敗しました。

それを受けてロシア軍は戦略を変えて、今度はウクライナのインフラストラクチャーの徹底的な破壊を企むようになりました。学校だけではなく、例えば先日は、ウクライナ中部の都市クレメンチュクにあるショッピングモールにミサイル攻撃がありました。ゼレンスキー大統領が国連安保理事会の緊急会合でオンライン演説されていましたが、軍事施設は一つもない、軍人は一人も死んでいない、その辺には本当にショッピングモールしかありません。この攻撃が行われたのは午後4時でした。攻撃された時に客は千人程いたと言われていました。死体が発見されたのは40人程度で、いまだに何十人も行方不明となっています。

また個人的な話になりますが、10歳くらいの時におじさんと一緒にウクライナの有名な教会であるスピャトヒルスク大修道院に行きました。戦争が始まってから、教会という何の軍事的な合理性がないところでも無差別に攻撃を受けまして、その教会は破壊されてしまいました。

それだけではありません、一番酷いのは子供の拉致です。実際今ウクライナが不法占拠されている地域は、現時点では、ウクライナ領土の15%くらいになります。その地域からロシア軍はウクライナ人の子供を25万人くらい強制連行したとも言われています。そしてプーチンは、数日前に新しい法律に署名しました。それは何の法律かというと、ウクライナから連れられた子供を、より簡単に帰化できるための法律です。それで彼らは、ウクライナ人の子供をロシア人の家族に入れて、そこでロシア人として育てようとしています。

今、この戦争によりロシアの兵士の戦死者が三万人くらいと言われています。本来だったら兵士というのは一番若くて、一番力があって一番労働力になりやすい人なのです。こうやって三万人も死んでしまうと、本来だったら人口構成或いは経済に対する大きな影響になりますが、ロシアはこういった影響を抑えるために、ウクライナ人の子供をロシア人として育てて、民族的アイデンティティをなくして労働力として使おうとしているのです。

このようなことを行っているのはロシアだけではありません。日本の近くで言うと、中国でもチベットとかウイグルとか非常に似たような政策を取っています。子供を親から離して特別な施設に入れて、そこで洗脳教育とでも言うべき事を行なっています。自分の母国語ではなくて中国語のみの教育しか許してなくて、こうやって少しずつ民族的アイデンティティをなくして中国人にしようとする、ロシアも全く同じ事をやっているわけであります。

また日本にも間接的に関係する話ですが、小麦です。実はウクライナの国旗は黄色と青ですが、黄色は小麦の畑、青は青空という意味です。ウクライナの一般的な光景が国旗になりました。それはなぜかと言うと、ウクライナは中世時代から農業大国で、食料自給率が非常に高かったわけですし、食料の輸出は国家予算の大きな割合を占めています。現在でも、世界で生産される小麦の11%がウクライナ産です。想像しやすくすると、例えばパンが10枚あれば、そのうちの1枚は必ずウクライナの小麦で作られているわけです。

日本は直接ウクライナからそれほど小麦を輸入していませんが、中東とかアフリカとかウクライナの小麦に依存している国は少なくありません。そして今ロシアは、ウクライナの黒海に機雷をばらまいて、ウクライナの港から船が出られない状況を作っています。国連はずっと食料危機を訴えていまして、もし今の状況が改善されないとアフリカや中東で千万人以上が飢饉の危機に落ちるのではないかという統計も出ています。

そしてロシアは、卑怯にも自分から機雷をばらまいて自分から食料危機を招いているのに、今度は、私たちはウクライナの小麦の輸出を認めてもいいよ、ただし欧米が経済制裁を解除した場合が条件だとも言っているのです。

実は侵略が始まったのは2月24日ですが、それには理由がありました。まず、アメリカは最初からずっと侵略があるということを訴えていたおかげで侵略が一週間ほど遅れました。最初は16日に侵略すると言われていました。侵略をこの季節にしたのは、ウクライナの気候があります。ウクライナは冬になるとマイナス20度とか15度とかになりまして、川とかは全て凍り、橋がかからない場合でも兵士たちが川を渡ることができます。そして地面も硬いので、戦車などの軍事車両がより簡単に道を通ることができます。だからロシアはどうしても冬に攻めたかったのです。

ところが、彼らの電撃戦が失敗して、もう4ヶ月間戦争が続いているわけでありまして。4月、5月は種を植える時期なのです。ウクライナの農家は、ミサイルや砲弾の雨が降ってくる中でも、防弾チョッキをつけてトラクターに乗って畑に出て仕事をしています。インタビューを受けて、危険ではないかと尋ねると、ここが我々の戦場なんだ、私たちはちゃんと種を植えなければ小麦を取ることできなくなり、ウクライナ人だけではなくて、世界的な危機になるから、我々はそうせざるを得ないと言って仕事を続けていました。

避難民について言うと、ウクライナで合計千万人程と言われていています。そのうち六百万人程が国内の避難民で、四百万人が国外へ逃げざるを得ない状況になっています。

また、実はこの戦争によって命を失うのは戦闘員だけではなくて間接的な死者もたくさんいます。具体的な例をあげると、ずっとガンの治療を受けていまして、2月24日に手術の予定を入れている人を知っています。ところがその日に戦争が始まって、手術ができる状況ではなくなりました。その後は病院には負傷者が溢れてしまい、結局手術は先延ばしになり手術を受けられないまま3週間

以内に亡くなった方を知っています。直接的な被害は一応統計を取れますが、間接的に病死とか餓死とか、そういった統計をとることは非常に難しいわけで、数万人が亡くなっていることは確かではないかと考えています。

さまざまなインフラストラクチャも破壊されていますが、それらはその後に復興すればいいのです。でも残念ながら、人の命というものは戻りません。私の友達の一人にも戦死者がいます。私は二〇一八年にウクライナで本を出版しました。内容は北方領土問題だったり、それによる対日戦争犯罪だったり、慰安婦問題だったり、要するに日本人の歴史観についての本を出版しました。その時に出版に協力をしてくださったのはミコラ・クラフチェンコという方です。彼は二〇一四年ロシアがクリミア半島侵攻後、ウクライナ東部の親露派組織に物資と武器を渡して紛争を起こした時に、すぐにウクライナ軍に入隊しまして、二〇一四年から二〇一八年の間にウクライナ東部で実際に戦った方です。その後に退役しましたが、国の未来を心配して、これ以上軍隊にいられないならば、何かしら正しいイデオロギーを広げることによって国の役に立ちたいと思い、自分の出版社を立ち上げました。そして、彼は先程申し上げた私の本を出版してくださいました。

二〇二〇年2月にはウクライナで日本建国記念のイベントをやりたいと彼が決心し、その結果、新しい文化会館みたいなところで開くことになりました。その時は私もリモート出演させていただきました。また、私は、靖国神社においてスピーチの機会を得て、一時間ぐらい話をしましたが、その様子を紹介してもらいました。その会場においてもミコラ・クラフチェンコさんは参加していました。ずっと日本に関心を持ってくださり、親日家でもありました。今の戦争が始まると、彼が軍事経験があるということですのですぐに入隊しまして、ウクライナ軍の教官になりました。残念ながら今年の3月に、キーウを守る戦いで戦死してしまいました。

何が言いたいかというと、この戦争で何も失っていないウクライナ人は誰一人も存在しないということです。親戚だったり友達だったり、または大事な所だったりを失ったりしています。ハルキフの話ですが、私の出身地で破壊されたものについていろいろ言いましたが、実は戦争が始まった当初と比べて状況は大分改善しています。なぜかと言うと一番ひどい時に、ロシア軍は本当に私の実家の隣の通りまで来ていました。今は、国境まで押し返されているからです。

ところがロシア軍は卑怯にも、今度はロシア本土から長距離、中距離ミサイルを集中的に飛ばしてくるわけです。昨日も私の出身地で、ミサイル攻撃の警報は六回鳴りました。私の両親は避難せずに、戦争が始まってからずっとハルキフにいます。最初ロシア軍が非常に近づいた時には、一時的に20km程離れたところに避難していましたが、ハルキフからは一度も出ていません。だから、いつミサイル攻撃をされてもおかしくない状況にあります。ロシア軍は毎日例外なくハルキフに向けてミサイルを飛ばしています。

ウクライナは、残念ながらそれに反撃することができません。今ウクライナがやっているのは、まさに専守防衛です。何故反撃出来ないかというと、ウクライナは欧米からさまざまな武器の支援

をいただいています。彼らはこう言います。「これはあくまでも防衛のための武器であって、ロシア本土を攻撃しないようにして下さい。もし、ロシア本土を攻撃してしまったら欧米も巻き込まれてしまう危険性があるので、ロシア本土を攻撃してしまったら、軍事的な支援をやめます」と言います。だからウクライナがやっているのは、まさに専守防衛です。聞こえはいいのですが、言いかえると本土決戦ということです。本土決戦しか許されていないのが今のウクライナの状態です。本土決戦をすると犠牲を回避することは不可能であることは誰にでもわかることです。

でも残念ながら日本の中でも日本共産党だったり 社民党だったり、本当に専守防衛を貫くべきと言っている人がいます。

また、今までは敵基地攻撃能力という言い方が使われ、最近では反撃能力に変わりましたが、この反撃能力を持つことにさえ反対する勢力が日本の中にいるのは不思議でならないです。専守防衛はどういう結果をもたらすか、ウクライナの現状を見ればすぐにわかるはずですが、彼らは現実を見ずに自分の理想ばかりを唱えていて非常に危険だと考えています。

ハルキフも非常に辛い状況でしたが、ウクライナの中で一番ひどかったのはマリウポリです。マリウポリはウクライナ東南部の港町で人口は50万人くらいいました。マリウポリは戦争が始まって一週間以内には確実に包囲をされてしまいました。そしてそのマリウポリでは、三千人のウクライナ兵が一万四千人のロシア兵を相手に88日間にわたって防衛戦を続けていました。最初、ウクライナ大統領は、軍事的合理性がなければ撤退してもいいと言っていましたが、彼らは最後まで戦うと決め撤退しなかったのです。すぐに包囲されてしまい、援軍が来ないことが分かっているながら、食料と弾薬は尽きつつある中で戦い続けました。

その時、マリウポリ防衛隊の副司令官はテレビ朝日にインタビューを受けたことがあります。そこで、「あなた達はなぜ戦い続けるのか、勝つことができないのはわかっているのではないか？」との問いに対して、副市長は、「この街には守るほどの価値がないでしょう。なぜなら完全に破壊されていますから。しかしきっと日本人はよくわかるはずです。私たちにとって、この町は建物だけではない、インフラだけでもない、私たちの祖国なのです。だから最後まで戦います」とこのように答えました。

その後は残念ながら、この世界では奇跡があまり起きないので、マリウポリは最終的には陥落してしまいました。けれども、マリウポリの防衛隊が88日間にわたって戦い続けたおかげで、ロシアの進軍はだいぶ遅れて、キーウ北部やハルキフの周辺からウクライナ軍はロシア軍を追い出すことが出来ました。だから彼らは、結局悪い言い方をすれば最終的に負けたかもしれませんが、その犠牲は決して無駄ではなくて、彼らの抵抗戦によって他の地域では救われた命が何万人もいるのは事実です。

ただ、残念ながら日本の中で戦いは戦争を長引かせるだけとの意見もあります。または、その命

を救うためには降伏もあり得ると言っている方もいます。橋下徹さんです。彼は多くのテレビ番組に出て、この降伏論を言っていました。また、彼は、「プーチンはいつか死ぬ、だからウクライナ人は10年や20年ぐらいは海外で頑張っ、プーチンが死んだ後にまた国へ戻って復興すればいい。」と言いました。日本人からこういう話を聞くのは、本当に不思議でならないです。

なぜかと言うと、日本だって北方領土問題を抱えているのではないのでしょうか。北方領土は一九四五年にソビエト連邦によって奪われた日本固有の領土であります。当時のソ連の指導者はスターリンでした。そのスターリンが一九五三年に亡くなり70年以上が経っていますが、スターリンが死亡した後に北方領土に戻った日本人は何人いるのでしょうか、一人もいません。領土を奪われるということはそういうものなのです。領土が一回でも奪われてしまって、そこに異民族が住んでしまったら、ほとんどの場合は再び戦争しないとそれを取り戻すことができないのは歴史が証明している事実であります。

日本の中で、「ウクライナに武器を提供すると戦争が長引く」と言う人もいます。日本共産党の議員はさらに酷くて、防弾チョッキも武器にあたるとの発言をしていました。ぜひとも防弾チョッキを着て、戦場で戦ってみてほしいですが、これだけ非現実的な説を唱えている人がたくさんいるのです。結局日本の場合は、憲法の制限とか法律の制限とかさまざまな制限があって、軍事的な支援とか武器の提供とかはできないわけですが、さらに残念なことに日本は迅速に法律を変えられるような国ではないので、多分今の戦争には間に合わないと思います。しかし将来的なことも考えるべきであります。

今、習近平は、どうしても台湾を取り戻すと何度も言っているわけです。もし万が一、台湾が戦場になってしまったら日本は無関係ではられません。台湾にとってこの地域での味方は本当に日本しかないわけです。もちろん米国も台湾の味方ですが、今のレンドリース法（武器貸与法）を見てください。アメリカもウクライナにさまざまな武器を提供していますが、約束してから実際その武器が現場に到着するまで1ヶ月半から2ヶ月程かかってしまいます。準備してコンテナに乗せて船に乗せて、その船がまた周辺国に届いて、そこから現場に届いて、そこで現地の人々が訓練を受けて初めて武器を使えるようになります。

中国のような大国を相手に、台湾が2ヶ月間耐えられるかどうかはさまざまな説があります。台湾が実際に侵略を受けた時に助けられる国は日本しかありません。今はウクライナに武器の提供はできませんが、いつかは軍事支援や武器を提供する必要性が必ず出てくると私は思います。そういった将来の危機に備えて、今から法律の改正を進めるべきではないかと考えています。日本の場合には本当に法律を変えるとか憲法を変えるとかにすごく時間がかかっているのです、今すぐ始めないと間に合いません。

私がそれを痛感したのは、よく参加する憲法改正の活動中です。初めて憲法改正の話をしたのは二〇一六年です。その後もう6年にわたって、さまざまな憲法改正の集会に出て、本当に6年でも

たいへん遅いと個人的には思っていますが、でも同じ集会に出ている先輩たちの話を聞くと 30 年とか 40 年とかそういう昔からずっと憲法改正の活動をやっている方もおられるのです。他の国はもっと迅速に変化できますが、日本はこういう状況なので本当に急がなければいけない。でも、コロナの影響で皆さん痛感したと思いますが、そういう危機の時を超えて少しずつ議論を深めていくとか、そういうことができない場合が多いのです。コロナでさえ、いろんな弊害が出たので、戦争になってしまったら、もっと迅速な対応をすることが必要になります。

降伏の話に戻りますが、日本で一部の人が、「ウクライナは降伏すべきだ、ウクライナが戦いを諦めたら命が救われる。」などと主張をする人がいます。橋本徹さんや鈴木宗男さんがそうです。でも、人類の歴史を見ると、降伏して幸せになった民族は圧倒的に少ないです、というか、ないです。

私たちの祖国ウクライナも、何度も海外による支配を体験しました。13 世紀にモンゴル帝国に滅ぼされた後に、リトアニアの領土、ポーランドの領土、ロシアの領土、それからドイツの領土、ソ連の領土になったことがあります。どちらかという、独立期間よりも他国に植民地支配されている期間の方が圧倒的に長かったです。そしてその時に、支配者にさまざまな差別、弾圧、同化政策、虐殺いろいろされてきました。特に、例えばロシア帝国の時代に、ロシアの皇帝はヴァルーエフ指令という法律を出して、その法律によって、ウクライナ語は存在しなかったし、存在していないし、これからも存在し得ない、ウクライナ語はロシアの方言にすぎない。よって、ウクライナ語で出版したり教育を行ったりすることはロシアの国益に反する、と言ってそれによってウクライナの教育を行った学校は例外なく閉校させられました。

その後は、一九一七年ロシア革命が起きましたが、その時はロシア帝国が混乱に落ちたからウクライナ人がすぐに独立運動を起こして、ウクライナ人民共和国を作りました。でもロシア革命が終わって、ロシア帝国がソ連に生まれ変わると再び赤軍がやってきてウクライナ領土を占領しました。これは一九二〇年の話です。

その 10 年後はスターリンがソ連の指導者になりました。スターリンはこう考えました。「今までウクライナをうまく同化できなかったのは、ウクライナ人が多すぎたからだ、だからウクライナ人の人口を減らせばいいんだ。」と決めて、ホロドモールという大虐殺を起こします。ホロドモールは最近日本でも知名度が上がりつつありますが、一昨年に、日本の映画館で「赤い闇 スターリンの冷たい大地で」という映画が放映されました。まさにホロドモールの話なので、興味ある方は是非この映画を見ていただければと思います。ここで簡単に説明します。

ホロドモールというのは一九三二年から一九三三年に、ウクライナ人が住んでいた各地域で起きた人為的な大飢饉です。赤軍がウクライナの村を包囲して、そこで一般農家が持っていた食料を 1 グラムも残さず全て奪って餓死させる。そしてその村から逃げようとする人は、逮捕されたり、シベリア送りにされたり、殺されたりしました。ウクライナ人から奪った小麦や他の食料を、全て海外に輸出して、そのお金で武器を買って、その武器をさらにウクライナの国民に向けて使っていたと

いうひどい話です。もちろんソ連時代なので、国家秘密もあり正確な統計をとるのは非常に難しいわけですが、それでもさまざまな説がありまして、この人為的な大飢饉で四百万人から八百万人が亡くなっていると言われていています。当時はひとつの家族は少なくとも平均四人の子供を持っていたので、もし彼らが生きていたら今のウクライナの人口は千万人以上多かつたのではないかとされています。人口構成に対しても大きな影響を与えた出来事でありました。

亡くなったウクライナ人の代わりに、ロシア本土からロシア系住民がどんどん入り込んで、そこに住み着いたわけです。これがいわゆるロシア系住民なのです。日本のメディアでもよくロシア系住民云々とか言っていますが、そのロシア系住民はある程度いることは真実ではありますが、そのロシア系住民は、そもそもなぜそこに現れたのか、それに言及するマスコミはほとんどありません。意図的に国家の政策として、少数民族を自分の母国から虐殺するなり強制移住するなりして、その代わりに本土の人を入植させる、これはウクライナ人だけがやられたことではありません。

ウクライナ南部のクリミア半島にはクリミア・タタール人という先住民族がいます。民族の名前にクリミアが付いているぐらいの先住民族で、彼らの本来の土地なのですが、一九四四年、第二次世界大戦中でしたが、ヒトラーに協力したと言って全民族に責任を負わせて、民族全員をクリミア半島からカザフスタンに強制移住させたのは当時のソ連でした。ソ連が存在する限り彼らは自分の祖国に戻ることはできませんでした。

また、チェチェン人も同じ理由で第二次世界大戦時にソ連に非協力的だったから、民族のほぼ全員がチェチェンから他のソ連の領土に移住させられました。いろいろな目的がありますが、まず先住民族を全く関係ない地域に移住させてしまうと、彼らの民族的アイデンティティはだいぶ薄まってしまいます。全く関係ない土地に住むと、自分の祖先の墓もないし、伝統的な地域もなく、その中でロシア語教育をされていくとどんどんロシア人になっていきます。だから今、ロシアの極東であるウラジオストクやシベリアではウクライナ系住民が2割ぐらいいますが、彼らは70年以上にわたってずっと同化政策をされていたので、文化的には全くウクライナ人にはなっていません。あくまでも遺伝子的には血が残っているというだけです。

ロシアと同様に中国も同じやり方をしています。中国人という民族は存在しないことはご存知だと思います。漢族や満州族などのいろいろな民族を合わせて中国人と呼びますが、人工的に作られた概念なのです。今、中国もチベットやウイグルにおいて同じことをしています。ウイグル人などを強制収容所に入れた上で、そこには中国本土の人をたくさん住まわせて、ウイグル人達には中国の教育しか与えずに、少しずつ彼らにも中国人としてのアイデンティティーを植え付けようとしています。

ウクライナ紛争の話に戻りますが、現在、国際社会のおかげでウクライナは何とか耐えています。単独では、この戦争に勝つことは不可能です。しかし、これは決して恥ずかしいことではありません。なぜかという、そもそも単独で外国に対する戦争に勝ち抜ける国は、多分アメリカ、中国、ロ

シアぐらいではないかと思います。例えば、ソ連がなぜ第二次世界大戦に勝ったかと言うと、アメリカの lend-lease 法により、戦車、戦闘機、鉄、服といった大きな経済支援、軍事支援を得ることができ、ドイツに勝つことができました。それでも二千万人程の犠牲が出ました。また、日本も日露戦争に勝ちましたが、戦争が始まる前までに日本の外交官たちがアメリカやイギリスの資本家を周り、我々は必ず勝つからと言って資金を借り、その資金のお陰で日露戦争に勝つことができました。戦後何十年もかかりましたがその借金を返すことができました。そういった歴史的な前例はいくらでもあります。

しかし、逆に、なぜ国際社会がウクライナを支援しているかと言うと、ウクライナ人が戦い続けているおかげであります。それは証明できます。実はこの戦争が始まって、すぐにウクライナの外務大臣がドイツの大臣に支援をして下さいとお願いしました。その時、ドイツの大臣は、「どうせあなたたちは 2 日間くらいで負けるだろう、これから支援したって、物資はロシア軍の手に渡るだけだろう」と言い、具体的な支援を拒否しました。ところが、2 日間どころか、今日に至るまで 4 ヶ月以上が経ってもウクライナは未だに負けていません。

現状を話しますと、ロシアが侵略戦争を始めた時に、北、東、南から同時に侵略していたので、前線は長くなり、ロシアの兵力は大分分散していました。ところが今、彼らは北部から完全に撤退し、南部はもはや攻撃ではなくて防衛戦しかしていないので、戦力が東部に集まっています。数日前は、激戦が続くセベロドネツクからウクライナ軍が撤退しましたが、取り戻すべくこの戦いに勝ち抜くためには、さらなる米国の支援、lend-lease の武器が届かないといけません。

ただし、届くまでには時間がかかり、兵士の訓練にも時間が必要であり、今大変厳しい状況であります。しかし、未だにウクライナは負けていません。そして南部においては、ヘルソンまで 10 km のところまで来ていて、ハルキフにおいても、地域を奪還する一歩手前であり、町を一つも失っていません。ウクライナ軍がこうやって全力で戦っているからこそ、ドイツは方針を見直して、ウクライナに対する武器の提供をし始めました。さらに、自国の防衛費を倍増する決定もしました。ドイツは一気に目覚めたのです。

実はプーチンが侵略を決めたのも、ウクライナ人が抵抗しないと思ったからではないかという見方があります。ロシアのプロパガンダを見たことがある方にはわかると思いますが、親ロシア派がよく言っていた嘘として、「ウクライナ東部の人はみんなロシア語なので親露派である、例えばロシア軍がウクライナ東部に侵略した場合でも、多くの東部住民がロシア軍を歓迎するだろう。」があります。今はそれが明らかな嘘だったことがばれていますが、自分自身の街が実際に砲撃とミサイル攻撃を受けたら、今まで親露派だったとしても、これから親露派でいられません。また、ウクライナは民主主義国家なので 4 年に 1 回選挙が行われていて、そこで親露派の支持率は 10%に過ぎなかったのです。今はさらに低いです。

そしてプーチン自身も自らのプロパガンダを信じて、ウクライナ人は戦わないと思ったから侵略

を決めたのではないかと考えられます。

さまざまな説がありますが、一つの面白い説としてコロナが直接影響しているというものもあります。プーチンはコロナが起きてから、人とは極力会わないようにしていました。プーチンが行う会談では、例えば自国政府の人と喋る時でも 15m くらいの長いテーブルを間に、長い距離をとって話をしていました。最近 1 年はプーチンがよく話していたのは、パトルシェフというロシアの秘密警察のトップと、ショイグというロシアの防衛相、この 2 人だけです。ロシアは独裁国家なので、周りはイエスマンしか残らなくて、結局は自分で自分のプロパガンダにやられて侵略を決めてしまったという説があります。

こうやって敵が、私たちが戦わないと思っていることが、侵略を招きかねないというのは事実でありまして、橋本徹さんの言うように戦闘が始まる前から逃げることとか降伏することを肯定するような言説は、はっきり言って危険思想ではないかと考えています。ところが、日本の場合は残念ながらそういう危険思想が憲法の中にも含まれています。

憲法九条の話になりますが、これは皆様もご存知だと思いますが、今の日本国憲法は日本人によって作られたものではありません。日本が戦争に負けてしまったせいで、GHQ によって押し付けられたものです。ところが、憲法を押し付けた GHQ でさえ、日本が主権を回復したらすぐに憲法を改正するなり新しい憲法をつくるなりすると考えていました。70 年以上が経っても、日本人は今の憲法の一文字も変えていません。

これは、他の国の目にどういう風に映るかと言うと、このような感じです。日本人という民族は、1 回でも武力をもって倒してしまえば、ずっと大人しく従ってくれる。例えば占領軍を置かなかつたとしても、1 回でも日本を負かしてしまつたら、彼らは自ら私たちが押し付けたルールを守ってくれる、これは非常に危険です。中国からしたら、アメリカは 1 回それができたから我々もできると言うと思って武力行使をするかもしれません、その可能性は十分にあり得ます。

逆に言うと、もし何万人もの日本人が投票所に来て憲法改正に賛成の票を入れて、「我々は自分の国を自分で治める覚悟はあるよ、我々は、自衛隊が私達を守って下さっているように、私たちも自衛隊の権利を守るよ。」という強い意思を示せば、その意思を示すこと自体が大きな抑止力になるのではないかと考えています。日本国憲法は日本だけの話に聞こえるかもしれませんが、決してそういうことはありません。世界の中で全てが繋がっています。日本国憲法によって迷惑がかかる国々は他にもあります。

ロシアが侵略の準備を始めたのは最近の話ではありません。去年の 12 月からウクライナ国境の周辺にロシアは 20 万人ほどの兵力を集結させていました。この兵力はどこから来たかと言うと、シベリア、ウラジオストク、樺太といった東の部隊を西に移動したわけでありまして。逆に言うとなぜロシアは簡単に東の部隊を西に移動できたかと言うと、東の防衛は薄くなったとしても日本には憲法

九条があって、いくら部隊を移動させたとしても日本人は北方領土を取り戻しに来ないということが分かっていたから、簡単に東の部隊を移動できました。ロシアの20万の兵力というのは、ロシアの陸軍の兵力の8割ぐらいでものすごい数なのです。

もし、ロシアがそこに兵力を集結させる時に、日本とアメリカが北海道における合同軍事演習を行ったら、プーチンも考え直したかもしれません。やはり、東も危険だから、そういう勝手な行動はできないと思うかもしれない。でも、実際にはそれはありませんでした。

だから、今の日本国憲法を平和憲法と呼んでいる人もいますが、私はその呼び方は間違っていると思います。平和憲法に見えて、実は世界のパワーバランスを崩してしまって、それによっては独裁国家に、日本から離れたところにも影響を及ぼして、国際情勢全体が悪化しているのは事実ではないかと考えています。

実は、ウクライナ人もかつて、日本国憲法九条や前文のような考え方をしていた時期がありました。これも結構有名な話ですが、ウクライナがソ連から独立した時に、百万人の軍隊と核兵器を持っていました。核兵器では、アメリカとロシアに続いて第3位の核兵器保有国でありました。ところが、当時多くのウクライナ人は、「冷戦が終わってソ連が崩壊したから、我々にはもはや敵がいないのだ、アメリカとソ連が対立していたけど、これからロシアだって西側に寄り添おうとしているから、もうヨーロッパにおける戦争はありえない。または、核兵器を持つと周りの国家が脅威と思うし、大きな維持費を考えると、そんな危険な物を持たない方がいい」と考えたのです。そして、私たちはヨーロッパの中にいるし、冷戦が終わりもうこれから戦うこともないから、防衛費を減らして、その他の福祉に回すべきだという主張をする人もいます。日本の中にもいます、社民党とかは何度もそう言っています。

ウクライナはそういう思想に騙されてしまって、百万人の軍隊を20万人、五分之一まで減らしました。そして、核兵器をすべてロシアに譲ってしまいました。その代わりに、ブダペスト協定書という条約を結びました。それは、ウクライナが核兵器を譲る代わりに、ロシア、アメリカ、フランス、イギリスがウクライナの安全を保証するという内容の約束でした。

ところが、実際はというと、ウクライナの安全を保証すると約束していたロシアこそ、ウクライナが一番弱っていた時に、ウクライナに対する侵略を始めて、クリミア半島とドンバス地方を奪って、そして今なお全面戦争を続けているわけです。そしてイギリス、アメリカ、フランスは、国連における人道支援、経済支援とか、武器の提供とかはしますが、派兵は誰一人しません。そして彼らが言うには、特にアメリカがよく言うのは、「もしアメリカが派兵して、そこで直接ロシア軍と衝突することになったら第三次世界大戦が始まる、だから、あなた達は完全に正しいし、私達はあなた達の主権を全力で応援しているけど、直接関わることはできません。また、ロシアは核保有国なので、私たちが関わってしまったら核戦争になるかもしれない、だから手を出せない」です。

でも、その理屈を中国にも当てはめることは十分できるのではないのでしょうか。例えば、今度は

もし万が一、尖閣に中国の軍隊が上陸した場合は、アメリカは同じことを言うかもしれません。「日米同盟があるし、それを私たちは尊重していますし、あなた達は100%正しいし、全力応援しています。だけど私たちが戦ってしまったら第三次世界大戦になるし核戦争になるかもしれないので、自分で頑張ってください、私たちは応援しています。」

当たり前の話なのですが、米兵の中で、ウクライナや日本のために戦いたい、死にたい人は一人もいないわけです。彼らには自分の家族と自分の祖国があるのです。だからアメリカ人は、日本人と共に戦うことがあっても、日本人の代わりに戦うことは絶対にありえません。当然の話です。だから、国際条約があるからと言って決して安心してはいけません。ウクライナにも、日米同盟ほど強いものではありませんが、ブダペスト協定書だって、各国の大統領が署名した立派な国際条約です。それでも今のような形になってしまっています。だから日本も危機的な状況になったら、やはり自分自身で戦わないと誰も助けてくれないわけであります。

あと一つウクライナ人が犯した大きな過ちというのは、他国の戦争を他人事だと思ったことでもあります。今の戦争はロシアによる初めての侵略戦争ではないのです。一九九一年には、彼らはチェチェン共和国に対して侵略を始めて、一九九二年にはモルドバの東部に対して侵略を始めて、二〇〇八年にジョージアに対して侵略を始めて、そして二〇一〇年にクリミア半島を奪って、二〇二二年にはウクライナに対する全面侵略を始めました。地図を見れば、北方領土もそうですが、本当にあらゆる隣国を順番に侵略しているのです。他の所で戦争が起きても、ウクライナ人はあまり危機意識を持ちませんでした。例えばジョージアが一番最近の例ですが、ジョージアでもロシアはひどいことをやっていました。南オセチアとアブハジアという二つの地域をほぼ一方的に不法占拠したわけですが、その時にも国際社会が団結して、今のような強い対ロシア経済制裁を課していたら、多分クリミア半島の危機はなかったと思います、が当時の国際社会はあまり動きませんでした。

そして多くのウクライナ人もこう考えていました。「ジョージアは、人口は 三百万人ぐらいしかないし、経済規模も低いし軍事力も圧倒的な差があるから、ジョージアはやられたかもしれないが、私たちは歴史的ないきさつも全然違うし、国の規模も違うから私たちは安全だろう。」と勘違いしていたのです。実は、世界がジョージアに対する侵略戦争を甘く見てしまって、そのせいでロシアが調子に乗って、今度はまさにジョージア人を殺していたロシア兵が今度は私達を殺しにやってきました。

残念ながら、日本の中でもウクライナ紛争や他の紛争は日本には関係ない、巻き込まれたくないと考える人がいます。でもロシアが、ウクライナを侵略するために使った言い訳を、そのまま日本に当てはめることができます。例えば、具体的な話をしますと、プーチンは何を言っていましたか。「ウクライナがNATOに入ってしまったら、それはロシアにとっての脅威なので、ウクライナによる NATO 加盟を防ぐために我々は先制攻撃をせざるを得なかった」。でも、日本の場合だって日米同盟が存在しています。そして、日米同盟を強化することは、今の政府の方針でもあります。今

度は中国やロシアが、「日米同盟をこれ以上強化されてしまったら私たちの脅威だから、先制攻撃をせざるを得ない。」と言うかもしれない。

また、プーチンは、「ウクライナ東部に、米軍の基地が出来てしまったら、ロシアにとっての脅威だから、それを防ぐためには先制攻撃をしなければいけない。」とも言った。今、日本の北海道においては、米軍基地は一つも存在しません。米軍基地をそこに置くことは、それは日本とアメリカの勝手であって、他国にとやかく言われる筋合いはありません。しかしながら、ロシアが今度はこう言うかもしれない。「北海道に米軍基地が置かれてしまったら、私たちにとっての脅威だから、北海道を占領しなければいけない」。または彼らは住民の保護を理由の一つにあげています。「ウクライナ東部の人々が、ずっと中央政府によって差別、弾圧をされてきて、我々は現地の住民を守るためにその地域を占領しなければいけない」と言いだしました。

私は、今の戦争が始まるずっと前から、沖縄についてロシアのプロパガンダにそっくりな話を聞いたことがあります。「沖縄は本来日本の領土ではありません、明治政府が無理やり併合した地域であります。沖縄県民の民意はずっと中央政府によって無視されていて、中央政府が沖縄県民に米軍基地の負担を強いている、沖縄県民は民族的にも日本人とは違って、そして本土の人によって長年差別を受けてきました」、とそのような話を聞いたことがあります。そういう話を国連まで行って、一生懸命世界にアピールする組織があります。または中国などが、国家予算をかけて世界に向けてこういう発信を一生懸命頑張っているわけであります。

ロシアのプロパガンダを聞いたことがある方は、おそらくクリミア半島について同じ話を聞いたことがあると思います。「クリミア半島は本来ウクライナの領土ではない、クリミア半島の住民は長年にわたって差別を受けてきました、クリミア半島の住民の民意は中央政府によって無視されている」とか、本当に、クリミアを沖縄に、ウクライナを日本に言い換えたら、沖縄に対して発信されるプロパガンダそのものであります。

残念ながら人は外国の話になると、何が真実か、まず分からないわけです。国際社会というのは、正しいことよりも聞きなれていることの方を信頼する傾向があります。私がよく言うには、百回嘘をつかれたら百一回反論しなければいけない、じゃないと、そのうち嘘が国際的常識になってしまいます。例えば慰安婦問題などで日本がやられた事ですが、ロシア語で慰安婦を検索すると一番最初に出てくるのは韓国関係のサイトなのです。そこでは、もちろん反日的な史観しか書かれていません。逆に言うと、日本の立場を知るためには何が必要かと言うと、日本語を喋らないと日本の立場を知ることはほぼ不可能です。日本政府の中には、そういった対外発信を頑張っている組織は現時点では存在しないし、大体、ボランティアたちが自分の志を持ってボランティア活動としてやっているほうが多いです。これはとても危険です。今本当に情報戦の時代なので、何かしらの敵のプロパガンダに対抗するための組織と、逆に親日的な対外発信をする組織は必ず必要になると考えています。

先ほど沖縄の話をしましたでしたが、北海道も決して安全ではありません。日本は、数年前、アイヌに関する法律を採用しました。鈴木宗男さんが一生懸命それをロビーしたわけですが、日本はアイヌを日本の先住民族として認めています。実は、ロシアもアイヌをロシアの先住民族として認めています。でも、その法律の意味合いは全然違います。日本の場合は、アイヌの文化を保護するためには国家予算を使ったりとか、文化遺産に登録したりとか、そういう支援を前提とした法律ですが、ロシアではそういう経済支援も何も一切ありません。

では、なぜアイヌを先住民族に認めたのか、それはこういう理論を成り立たせるためです。「アイヌはロシアの先住民族であります、北海道は本来はアイヌの領土であります、よって北海道はロシアの領土であります」そんなことないと思うかもしれませんが、これは私の言葉ではなくてロシアの国会議員が実際に数ヶ月前に言っていたことです。確かロシアの国会議員のミロノフさんだったと思いますが、日本でも大きく報道されました。そのロシアの国会議員は、「ロシアは、北海道に関してあらゆる権利を有する」と言いました。

ロシアの戦争を始めるための言い訳は、最初はまだ論理的っぽい、理屈っぽいことが多くありましたが、その後はもっと狂った方向に行って、わけわからないことを言い出しました。

例えば、「ウクライナには核兵器を作る技術があるので、私たちがもしウクライナを侵略しなければウクライナはそのうちに核兵器を作って私たちを攻撃するかもしれない」とのことです。ウクライナはもちろん、ミサイルを作る技術もあるし、もと核兵器保有国なので、作ろうと思えば、たぶん数十年かかるだろうけど作ることはできたかもしれませんが、そのつもりは一切ありませんでした。なぜかと言うと、さっき言った通り、ウクライナは国際社会の協力があってこそ今は成り立っているわけですし、核兵器を無断で作るなんてことは全世界を敵に回すことになってしまうからです。さらに言うと、ウクライナは戦争によっては。さまざまな経済的被害を被っていて、新しい核開発をするための資金はそもそもないわけです。

ロシアは核技術を持っているというだけで、ものは持ってないけど侵略しようとしてきました。実は、日本の核技術も結構発展しています。「自分たちが日本を攻撃しなければ日本は核武装して攻撃するかもしれない。」と言い出すかもしれない。

核兵器の話もさることながら、彼らはその後もひどい妄想を言い、ウクライナには生物学研究所があって、「そこで生物兵器や何とコロナの研究が行われていた。」とまで言い出しました。私は、最近のロシアのニュースを見ていないので何とも言えませんが、もしかして、地球温暖化までウクライナのせいにされるかも知れないとも思います。

これらのことから、本当に侵略国家は侵略しようと思えば理由は後付けでいくらでも考えられるということです。いくら非論理的で妄想的であっても、それを自信満々に堂々と言うことによって国際社会の中では信じてしまう人は絶対に出てきます。問題は、日本の左翼が相手に攻める理由を与えなければ攻められないと思っているかもしれませんが、決してそういうことではないのです。

中国やロシアは、領土拡大という目的をもって、そのための理由を探しているに過ぎないのです。いくら考えても、いくら気を付けても、彼らは侵略しようと思えばするし、その理由は後から考えるわけです。

ウクライナは極右政権があって、ウクライナを正常化させるために侵略したとも言います。彼らは毎日のようにナチス、ナチスと言いますが、はっきり言ってロシアからしたらナチスというのは自分に従わないものは全てナチスという考え方にすぎないのです。

日本も今の戦争が起きてから日本がウクライナに対する支援を始めると、ロシア大使館がこうツイートしました。「この百年間で日本は2回もナチスと手を組んだ、1回はナチスドイツと手を組んで、今度はナチスウクライナと手を組んでいる。」また、彼らは生物学研究所について話す時に、毎回引き合いに日本の第七三一部隊を出します。ウクライナが同じことをやっていると言い出しています。

私は、実は日本において言論活動を始めるにあたり、誰に連絡しようかと思った時にこう考えました。私はウクライナにいた時にも、報酬団体に属したことはありませんが、国民運動には関わっていました。そして当時から、ロシアのメディアから私たちは極右とか差別主義者とかナチスとか、いろんなレッテルを貼られていました。

日本に来て、仲間を見つけない時に私は何をしたかという、日本においては誰がファシストのレッテルを貼られているか調べました。そこで日本会議はファシスト組織である、極右差別主義者の組織である、または日本を裏から操っている秘密結社である、みたいないろいろな陰謀論がいっぱい書かれていました。このことから、左翼の新聞から執拗に叩かれているということで、逆にまともな方々なのだと思って連絡をし今日に至っています。このように日本の愛国者がファシストとか帝国主義者と呼ばれているように、ウクライナの愛国者がナチス党だとの言い方をされているに過ぎないのです。

ロシアは実際にそれを理由に侵略した。だから、今度は中国が、「今の日本政府が憲法を改正しようとしていることは、帝国主義を復活させようとしていることだ、だから私たちは二度と日本の帝国主義を復活させないために侵略しなければいけない」と言い出すかもしれません。こうやって理由はいくらでも考えられます。

私の勝手な考えですが、日本の方がウクライナより危険な状況にあるのではないかと思います。具体的には、ウクライナは今の戦争が始まる前までは領土問題を抱えたことはありませんでした。例えば、クリミア半島は二〇一〇年に奪われましたが、それ以前にロシアは一度もクリミア半島を返せとか正式に言ったことはありません。ウクライナの国境を認めていました。日本の場合はどうでしょうか。尖閣、竹島、北方領土にしても、大半の隣国と領土問題を抱えています。

また、ウクライナの国民は今の戦争が始まる前まで、一回も拉致をされた事はありません。日本の場合はどうでしょうか。何十人も拉致されて、未だに日本に帰ることができない方々がいらっしゃいます。また、ウクライナの場合は、敵国のミサイルがウクライナの空を飛んだことがありませんでした。日本の場合は、北朝鮮のミサイルは毎月のように私たちの頭の上を飛んできます。

ウクライナは今、戦争中ですが、実は私が初めてミサイル攻撃の警報を聞いたのはウクライナではなく日本です。私は、二〇一九年に群馬県に住んでいましたが、ある日の早朝に携帯が鳴って起きて、地震かなと思って画面を見たら北朝鮮ミサイル発射と書かれていました。あれは、Jアラートが初めて鳴った日でしたが、私はすごく強い危機感を覚えたわけですが、SNSとかを見ると多くの日本人がミサイルを飛ばした北朝鮮ではなくて、Jアラートを鳴らした政府を怒っていたのです。電車を止めるな、仕事に遅刻してしまった、とかいろいろ言っていて、不思議でならなかったです。彼らは言い訳として、北朝鮮は別に日本を狙った訳ではなくて、ただ日本の空を通過しただけだと言う人がいました。なぜそこまで北朝鮮の技術を信頼できるか私には理解できません。まず北朝鮮は、ミサイルを発射出来るけど、それがどこに落ちるか、多分北朝鮮人自身が分からないと思います。とりあえず飛ばしているだけなのです。だからそうやって危険なものが私たちの上を飛んでいるのに、何の危機感もなく自分の政府ではなくて北朝鮮の方を信じる人がいるのは不思議でならないのであります。

話は戻りますが、ウクライナの場合は敵国はロシアしかありません。それ以外は、ポーランドにしてもスロバキアにしてもほとんどの国々はウクライナの味方です。日本の場合はどうでしょう。北朝鮮、ロシア、中国と敵国の方が圧倒的に多くて、逆に言うと味方は台湾しかいません。韓国も一応民主主義陣営ですが、さまざまな歴史的な問題があって、助けてくれるとは思えないわけです。その上、日本の敵国はすべて核兵器保有国であります。

さらに言うと、ウクライナは陸続きなので、海外の軍事支援とか経済支援とかを鉄道とかで簡単に届けることができます。今も実際に、毎日のように欧米の支援がウクライナに届いています。ところが日本は島国なので、海上封鎖されてしまったら、海外の支援は届かなくなるわけです。ましてウクライナは小麦を大量に輸出していて、食料に困ったことはありません。日本の食料自給率は30%か40%その程度です、要するに実際に戦闘を行わなかったとしても、海上封鎖されるだけで日本人が飢饉になるわけです。本当にいろんな面において、ウクライナより危険な状況にあるにも関わらず、未だに危機感を抱いてない人が多くいるのは不思議です。

今のウクライナ侵略を受けて、多くの国々はやっと目覚め始めています。ドイツも、前は変な事をたくさん言っていました。今の戦争が起きてから、彼らも考え方を見直して、防衛費をほぼ倍増します、ウクライナに武器を提供します、そして今までの外交方針は間違っていたと言いました。

今、日本の中でも、ウクライナの問題に関心があると答えている人は91%もいます。さらに言うと、例えば自分の日常生活に影響が出た場合でも対ロシア経済制裁を続けるべきかどうかという問いに対しては74%が続けるべきと答えています。つまり、かつてないほど高い国防意識を今の多く

の日本人は持ちはじめているわけです。本当にこの機会を使わないと、憲法改正は当分無理ではないでしょうか。今こそチャンスです。今は、防衛費のGDP2%への増額に反対するのは共産党しかいません。それ以外のほとんどの国民は納得しています。

日本は直接ウクライナを支援しなかったとしても、日本という国が強くなるというだけで世界のパワーバランスが維持され、それによってウクライナは自動的に利することになると私は考えています。いまウクライナは既に大きな被害を被ってしまって、私たちはその被害を取り返すことは絶対にできません。しかし、その犠牲が無駄にならないようにウクライナを21世紀の侵略戦争の最後の被害者にすることができます。

自分の失敗からではなくて、他国の失敗から学ぶ人が一番賢い人だと思います。日本もウクライナと同じ過ちを犯さずに、しっかりと強い防衛意識を持って、そして民主主義陣営の一員としての自覚を持って、より強い国、より軍事力を持った国になっていくことを心より願っています。

本日はこれで終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

終